

平成29年度 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の
「緊急対応研究課題」の研究要望について

研究内容

*Heterodera schachtii*の我が国への侵入原因の解析及び防除技術の開発

研究内容の背景・概要

<研究の必要性>

本年9月に長野県諏訪郡原村で栽培されていたアブラナ属野菜について、生育不良（生育が特に悪いところは、出荷が出来ない状況）があったため、原因を調査したところシストセンチュウが発見され、植物防疫所において同定を行った結果、我が国未発生の重要病害虫の一つであるテンサイシストセンチュウ（*Heterodera schachtii*）であることを確認した。

本線虫は、キャベツ、ブロッコリー等のアブラナ属植物、テンサイやビーツ等のフダンソウ属植物、しょくようだいおう（ルバーブ）の生育に悪影響を及ぼすおそれがある重要病害虫で、植物防疫法が定める「検疫有害動植物」の一つとされており、その検疫措置として、本線虫の発生国からの寄主植物の地下部であって栽培の用に供し得るものを我が国に輸入する場合は、輸出国の栽培地において本線虫に関する検査を実施することを求めている。

以上のように、本線虫は我が国未発生の検疫有害動植物の一つであることから、適切に発生範囲を把握して、その発生地域及び危険にさらされている地域別に適切な対策を講じることが緊急の課題となっている。

本線虫はこれまで我が国に発生していなかったことから、本線虫の我が国への侵入経路や侵入原因を特定するとともに、海外における防除情報を踏まえ、本線虫へ防除効果の高い対抗植物や薬剤の探索を実施する必要がある。また、これらの成果や本線虫の生態等を踏まえ、本線虫のまん延を防止するための防除マニュアルを作成する必要がある。

<研究内容>

- ① 本線虫の侵入経路や侵入原因を特定するため、海外個体群との比較に必要な遺伝子情報等の収集・解析を実施。
- ② 本線虫に対する有効な防除技術（対抗植物・薬剤の選定及び利用法等）を開発するとともに、各防除技術の効果を数値化。抵抗性品種の情報を蓄積（植物防疫法上問題となる寄主範囲の特定のための情報蓄積を含む。）。
- ③ ②の成果を踏まえ、発生ほ場における本線虫の発生密度を検出限界以下にするための、生産地域の実態に応じた防除マニュアルの作成。

担当

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課
国内防除第1班 阿部、南部、住田
TEL : 03-6744-9644 (直通)

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官 (基礎・基盤、環境) 室 釘宮
TEL : 03-6744-2216 (直通)